

国語だより その5

相良中学校 国語部

田子の浦にうち出でて見れば白妙の
富士の高嶺に雪は降りつつ



今日の一首は、「小倉百人一首」の四番、山部赤人の歌です。歌の内容は「田子の浦に出て見渡すと、真っ白な富士の山頂に、雪が降り積もっています」というものです。

富士山の美しい景色を詠んだ歌ですが、作者がなんのためにこの歌を詠んだかわかりますか。当時は人々が簡単に旅に出られるような世の中ではなく、情報を伝える手段が限られていたため、歌で旅の景色を紹介していたのです。奈良の都に住んでいた人々にとって富士山は、見たことがないけれどとても神聖な山だったようです。

読書感想文をどう書くか①～選書編の1～

読書感想文に使えない本は、「雑誌・写真集・図鑑・パンフレット・マンガ」です。特にマンガは、皆さんの心に強く訴えかける素晴らしい作品であっても読書感想文には使えません。と、書いてみると、皆さんに求めているものは「文章を手がかりにして筆者の主張や作品の主題に迫ること」であることがわかります。言葉に置き換えられたイメージを想像力を駆使してイメージし直しなさい、というわけです。

【例】

マンガなら、



でわかる
ところを、

「勇者の抜き放った剣は、そのオーラをまとめて輝いた。辺りの闇は切り払われ、光の中で勇者は完爾と笑った。」

※完爾
…にっこり

なんて書いてあるわけ。

そう考えると、「イメージしにくい文章は、読書感想文には適していない」と言えます。それは、一人ひとりの生活体験に大きく関わってきます（ここで言う体験とは、直接的な実体験だけでなく、間接的な伝聞やメディアからの情報も含まれますよ）。サッカーの経験がある方がサッカーを題材にした物語はわかりやすいでしょう、ゲームなどでファンタジーの世界に親しんでいる方が異世界冒険譚を楽しく読めるでしょう、ということです。登場人物の年齢が近い方が、理解しやすいかもしれません。

大切なのは「想像力」です。先生は江戸時代に生まれてはいませんが、江戸を舞台にした「しゃばけ」シリーズ（畠中恵／作）が好きです。言葉を手がかりに、想像の翼を広げてみましょう。きっと素敵な作品との出会いが待っているはずですよ。

